

タイムスリップして江戸を歩こう!!

江戸名所図会100選

=全7巻1040ヶ所の中から100ヶ所を選定=



御城 西御丸

隅戸水

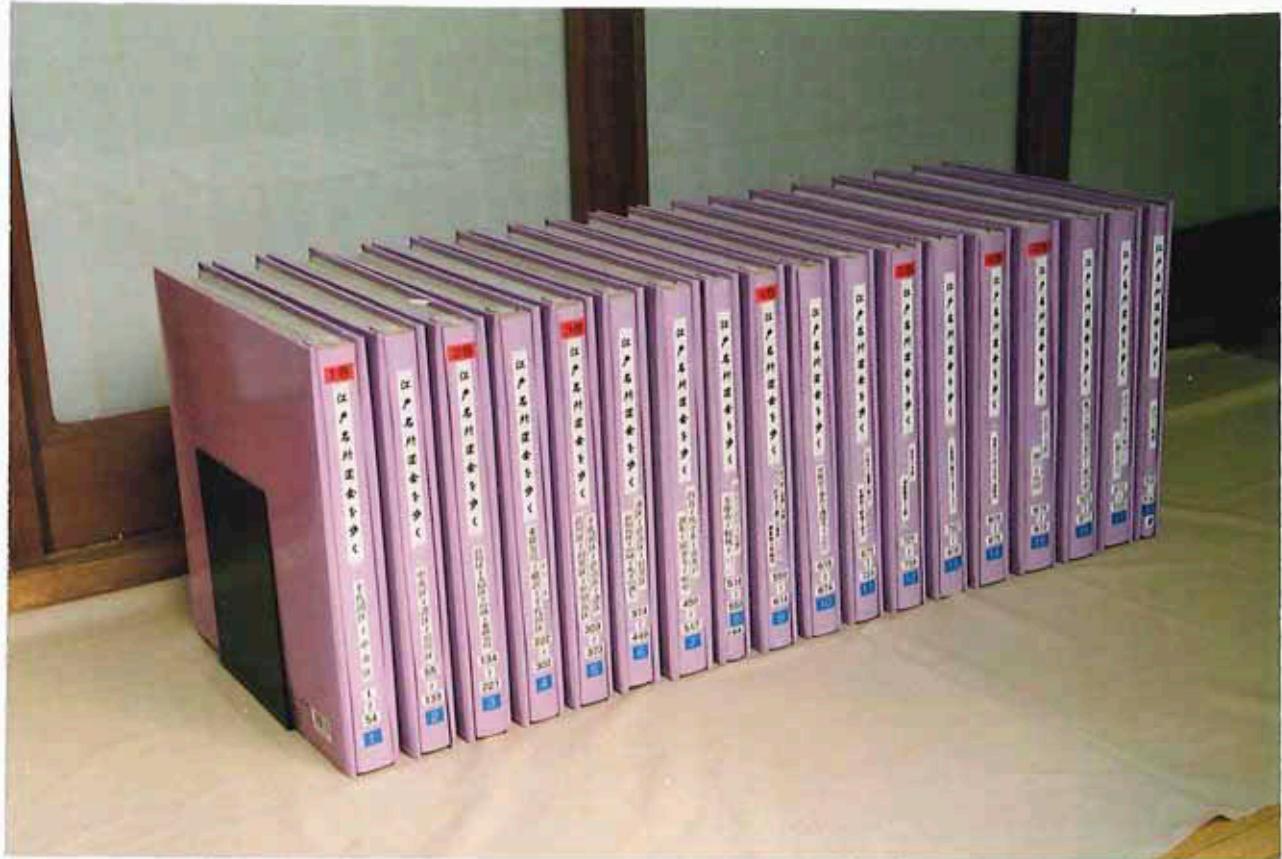
はじめに

江戸の地誌『江戸名所図会』は天保7年（1836）に出版されました。全7巻で20冊から成り、著者は斎藤幸雄・幸孝・幸成の親子3代で、30数年かかつて完成させた絵入りの江戸の案内書です。「図会」とはある種の図や絵を集めたものをいいます。

斎藤家は美濃国（岐阜県）の出で、幸雄・幸孝・幸成は初代から7代目、8代目、9代目にあたる人で代々神田雑司町（司町）で名主をしていました。

絵は長谷川雪旦が描きました。江戸の生まれで、三枚橋（御徒町）に住み唐津藩小笠原家の御用絵師をも勤めていた人で、この本はこの人の絵があることで価値が高いとされています。この絵を持つて実際に現地へ行つてみるといかに細かい所まで正確に描かれているかが分かります。又こんなに変わってしまっているのかと思われる様な場所もあり、全く跡形もない所もあります。

本の中の絵は約670枚程あり、目次の項目は1040ヶ所あります。これを全部調べて歩き写真を撮り、その中から100ヶ所を選んで本にしました。



1040ヶ所のアルバム 18冊



使用した本



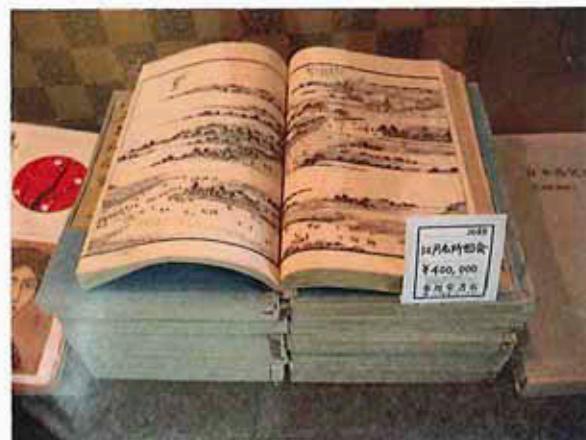
人物往来社 昭和42年

本文の原文

吹上御庭 旧名を局澤と云 按吹上は江戸川の邊武州富士川の邊武州瀧川の邊吹上ともいふが、又江戸小石川氷川明神の南の地、旧名を吹上といふが、小石川の水流の終り也。又相模藤沢の邊武州鴻葉の邊す皆此名あり
松原小路 田安御門の内なり昔此地松原多くあり一を結城黄門公
御館を建られて木立の御館と呼ぶるを
往古太田道確我庵と



原本 全20冊



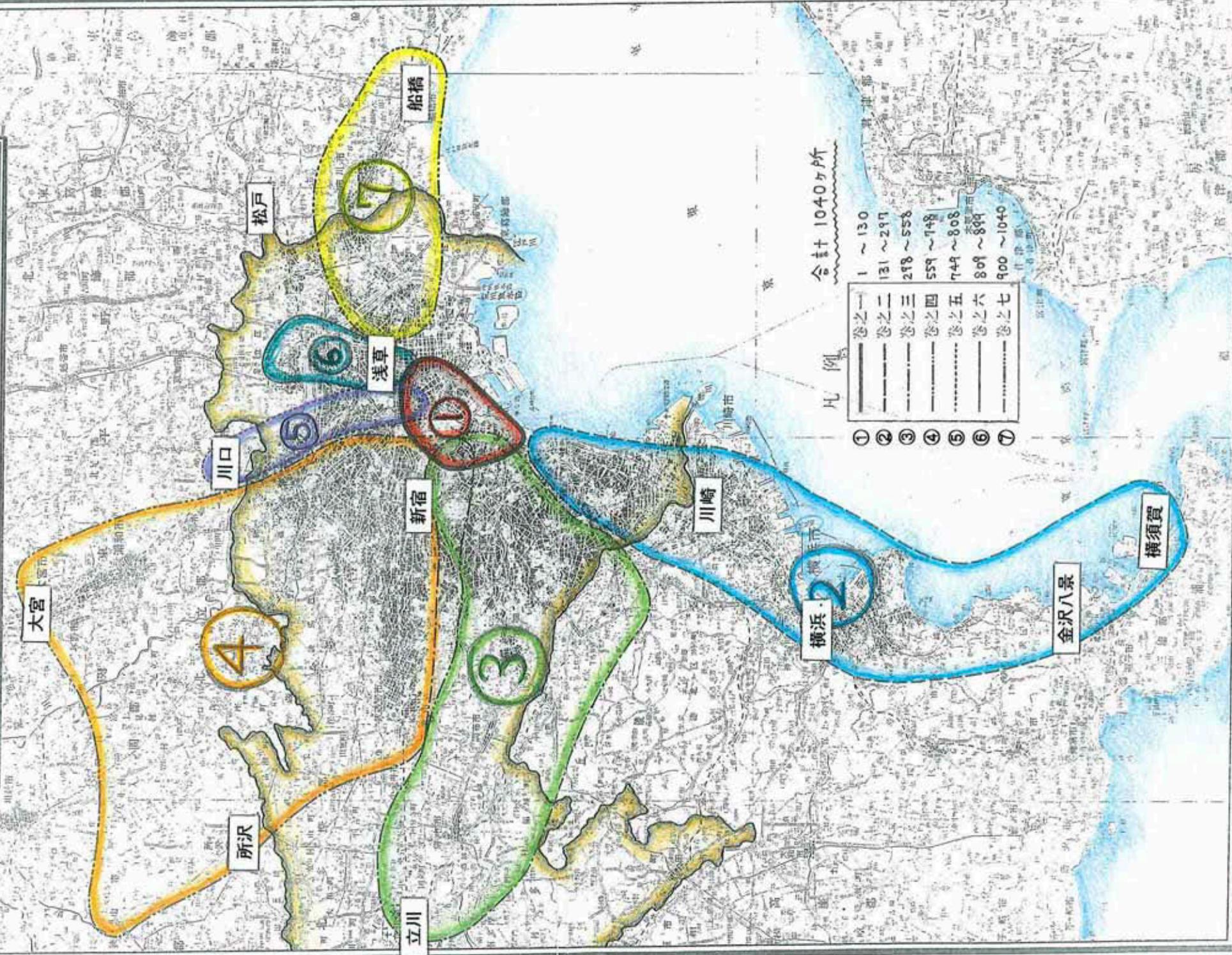
古書店で市販されている

=全7卷=

各巻の地域

第1卷	1	130	《天権之部》
			吹上御苑・日本橋・神田・水道橋
			浅草橋・両国・新川・佃島・築地
			新橋・増上寺・三田・高輪
第2卷	131	297	《天璇之部》
			品川・大井・本門寺・大森・蒲田
	298	558	《天璣之部》
			川崎・横浜・小机・金沢八景
第3卷			霞が関・広尾・目黒・世田谷・渋
			谷・狛江・小杉・四谷・新宿・府
			中・立川・日野・稻城
第4卷	559	748	《天權之部》
			市ヶ谷・淀橋・中野・井の頭池・
			小金井・神楽坂・高田馬場・小石
			川・石神井・練馬・野火止・大宮
第5卷		749	808
			《玉衡之部》
			お茶の水・寛永寺・日暮里・根津
			・駒込・王子・赤羽・川口
第6卷		809	899
			《開陽之部》
			浅草・駒形・上野山下・千住・西
			新井・石浜・新吉原
第7卷	900	1040	《搖光之部》
			深川・木場・龜戸・隅田川東岸・
			柴又・松戸・行徳・市川・船橋

江戸名所圖別冊収録範囲一覧



目次

《千代田区》

1	吹上御苑（皇居）	34	大久保の映山紅
2	田安の台（九段坂）	35	落合蟹（神田川）
3	桜の井（永田町）	36	湯島聖堂
4	霞ヶ関	37	湯島天神
5	日枝神社	38	大洗堰（江戸川公園）
6	豊島屋酒店（錦華公園際）	39	水戸徳川家上屋敷（後楽園）
7	水道橋（懸樋・お茶の水）	40	護国寺
8	神田明神	41	根津神社
9	今川橋	42	小石川植物園（御薬園・養生所）
10	日本橋	43	浅草寺
11	通町（銀座通り）	44	御厩河岸の渡し
12	大伝馬町通り	45	今戸焼
13	十軒店（三越の北側）	46	真土山聖天宮
14	一石橋	47	新吉原町
15	吉原町旧地（元吉原）	48	寛永寺
16	歌舞伎芝居（人形町）	49	不忍池・錦袋円（仲町通り）
17	鎧の渡し（日本橋川）	50	山下（上野公園下）
18	新川酒問屋（靈岸島）	51	両国橋
19	永代橋	52	回向院
20	佃島	53	隅田川堤春景
21	木挽町の芝居小屋（銀座）	54	木母寺・水神社
22	築地本願寺	55	富岡八幡宮
23	愛宕山	56	芭蕉庵旧址
24	増上寺	57	亀戸天神
25	高輪大木戸	58	中川船番所
26	泉岳寺	61	大井山弘福寺（地名の元）
27	神楽坂	60	御殿山
28	高田馬場	59	品川宿
29	和田戸山（戸山公園）	125	面影橋
30	高輪大木戸	123	淀橋
31	泉岳寺	121	四谷大木戸
32	神楽坂	119	新宿（内藤新宿）
33	高田馬場	117	新宿
34	和田戸山（戸山公園）	115	
35	高輪大木戸	113	
36	泉岳寺	111	
37	神楽坂	109	
38	高田馬場	107	
39	和田戸山（戸山公園）	105	
40	高輪大木戸	103	
41	泉岳寺	101	
42	神楽坂	99	
43	高輪大木戸	95	
44	泉岳寺	93	
45	高輪大木戸	91	
46	泉岳寺	89	
47	高輪大木戸	85	
48	泉岳寺	83	
49	泉岳寺	81	
50	泉岳寺	79	
51	泉岳寺	77	
52	泉岳寺	75	
53	泉岳寺	73	
54	泉岳寺	71	
55	泉岳寺	69	
56	泉岳寺	67	

《文京区》

34	大久保の映山紅	67
35	落合蟹（神田川）	69
36	湯島聖堂	71
37	湯島天神	73
38	大洗堰（江戸川公園）	75
39	水戸徳川家上屋敷（後楽園）	77
40	護国寺	79
41	根津神社	81
42	小石川植物園（御薬園・養生所）	83
43	浅草寺	85
44	御厩河岸の渡し	89
45	今戸焼	91
46	真土山聖天宮	93
47	新吉原町	95
48	寛永寺	97
49	不忍池・錦袋円（仲町通り）	99
50	山下（上野公園下）	101
51	両国橋	103
52	回向院	105
53	隅田川堤春景	107
54	木母寺・水神社	109
55	富岡八幡宮	111
56	芭蕉庵旧址	113
57	亀戸天神	115
58	中川船番所	117

《台東区》

59	御殿山	127
60	品川宿	125
59	御殿山	123
61	大井山弘福寺（地名の元）	121

《港区》

51	高輪大木戸	119
49	泉岳寺	117
47	高輪大木戸	115
45	泉岳寺	113

《江東区》

55	富岡八幡宮	111
----	-------	-----

《新宿区》

53	中川船番所	119
52	芭蕉庵旧址	117
51	亀戸天神	115
50	木母寺・水神社	113
49	高輪大木戸	111
48	泉岳寺	109
47	高輪大木戸	107
46	泉岳寺	105
45	高輪大木戸	103
44	泉岳寺	101
43	高輪大木戸	99
42	泉岳寺	95
41	高輪大木戸	93
40	泉岳寺	91
39	高輪大木戸	89
38	泉岳寺	85
37	高輪大木戸	83
36	泉岳寺	81
35	高輪大木戸	79
34	泉岳寺	77
33	高輪大木戸	75
32	泉岳寺	73
31	高輪大木戸	71
30	泉岳寺	69
29	高輪大木戸	67
28	泉岳寺	65
27	高輪大木戸	63
26	泉岳寺	61
25	高輪大木戸	59
24	泉岳寺	57
23	高輪大木戸	55
22	泉岳寺	53
21	高輪大木戸	51
20	泉岳寺	49
19	高輪大木戸	47
18	泉岳寺	45
17	高輪大木戸	43
16	泉岳寺	41
15	高輪大木戸	39
14	泉岳寺	37
13	高輪大木戸	35
12	泉岳寺	33
11	高輪大木戸	31
10	泉岳寺	29
9	高輪大木戸	27
8	泉岳寺	25
7	高輪大木戸	23
6	泉岳寺	21
5	高輪大木戸	19
4	泉岳寺	17
3	高輪大木戸	15
2	泉岳寺	13
1	高輪大木戸	11

《品川区》

59	御殿山	119
----	-----	-----

《墨田区》

59	御殿山	119
----	-----	-----

《目黒区》

60	品川宿	119
----	-----	-----

《目黒区》

60	品川宿	119
----	-----	-----

《大田区》

63 本門寺.....

64 大森和中散.....

.....131 129

《世田谷区》

65 豪徳寺（吉良城址）.....

66 代田橋（玉川上水）.....

.....135 133

《渋谷区》

67 渋谷城（金王八幡神社）.....

.....137 137

《中野区》

68 桃園.....

.....139 139

《杉並区》

69 大宮八幡宮.....

.....141 141

《豊島区》

70 鬼子母神堂.....

.....143 143

《北区》

71 平塚城跡（上中里駅南側）.....

.....145 145

72 飛鳥山.....

.....147 147

73 王子稻荷神社.....

.....149 149

《荒川区》

74 千住大橋.....

.....151 151

75 日暮里（ひぐらしのさと）.....

.....153 153

76 橋場の渡し・石浜城址.....

.....155 155

《足立区》

77 西新井大師.....

.....157 157

《練馬区》

78 板橋宿.....

.....159 159

《葛飾区》

79 石神井城址.....

.....161 161

80 練馬城址（豊島園）.....

.....163 163

82 柴又帝釈天.....

.....167 167

多摩地区

《調布市》

83 深大寺.....

《府中市》

84 大國魂神社（六所宮）.....

85 小野神社（武藏国の一之宮）.....

《三鷹市》

86 井頭池.....

《小金井市》

87 小金井桜.....

《国分寺市》

88 国分寺.....

89 恋が窪.....

《国立市》

90 谷保天満宮.....

《立川市》

91 普濟寺.....

《日野市》

92 高幡不動.....

《多摩市》

93 関戸の関所跡・城山.....

《神奈川県》

94 川崎宿（万年屋）.....

《千葉県》

95 大師巖室（宿河原駅の南方）.....

《埼玉県》

96 金沢八景（武蔵国の大良岐郡）.....

《平林寺》

97 塩浜（行徳）.....

《大宮氷川神社》

98 国府台・真間浦（市川市）.....

.....209 207

205 203

199 197

193 195

191

187

183

181

179

177

173

169

※地図にある鉛筆書きの番号は1040ヶ所の
目次の通し番号で、歩いた順番です。

千代田区

1 吹上御苑

「吹上」とは風が吹きあげる臨崖の地のこと。家康の入国前は局沢といつた。
2代秀忠の頃、御三家や親藩の宅邸があつたが、明暦の大火（1657）で屋敷
が焼失したあと火除地となり、その後庭園として使われ現在に至っている。



「江戸図屏風」に描かれている天守閣

本丸の天守台の上には五層の天守閣があった。
寛永15年（1638）完成した日本最大の天
守閣で高さ51.5mあったが、明暦の大火で
焼失し、その後の再建はされなかった。



天守台

現在は天守の石垣のみ残されている。

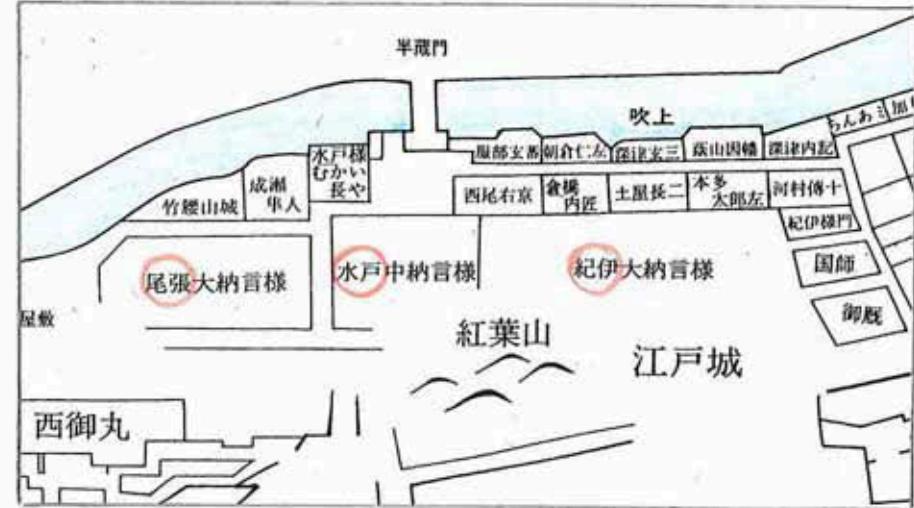
『千代田まち事典』



吹上御苑
舊名を局澤と云ふ。按するに吹上とは、江河に臨んで高き地をいふなるべし。



『東京23区市街道路地図』



吹上御苑には元和2年（1616）御三家の屋敷が置かれた。
明暦の大火（1657）で焼失、その後火除地となった。

寛永9年（1632）の江戸図



『江戸図屏風』に描かれている御三家の屋敷。
3代将軍家光の頃の様子。

2 田安の台 千代田区九段北一丁目

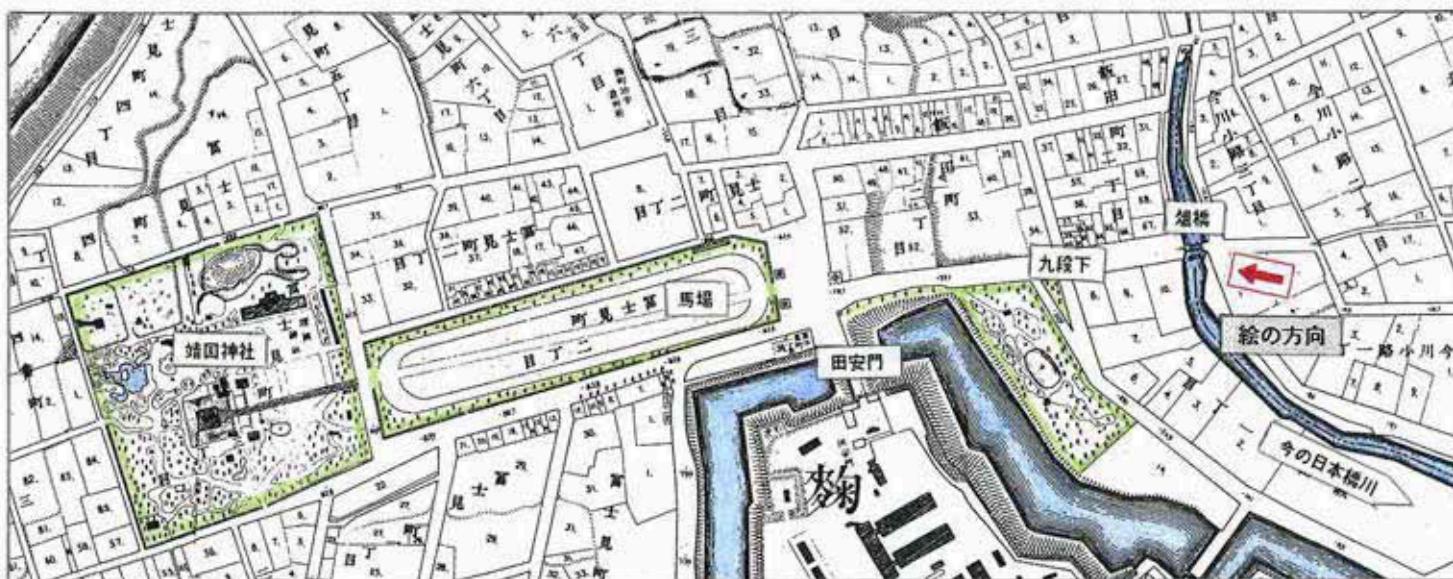
俎橋の上空から見た九段坂の高台。「俎」とは、江戸城内の台所をまかなう役人が住んでいた所の名。坂が九段あるので九段坂といわれ、坂の途中の右側には幕府の御用屋敷があった。坂の石段は宝永6年（一七〇九）取り払われた。



俎橋から九段坂を望む。



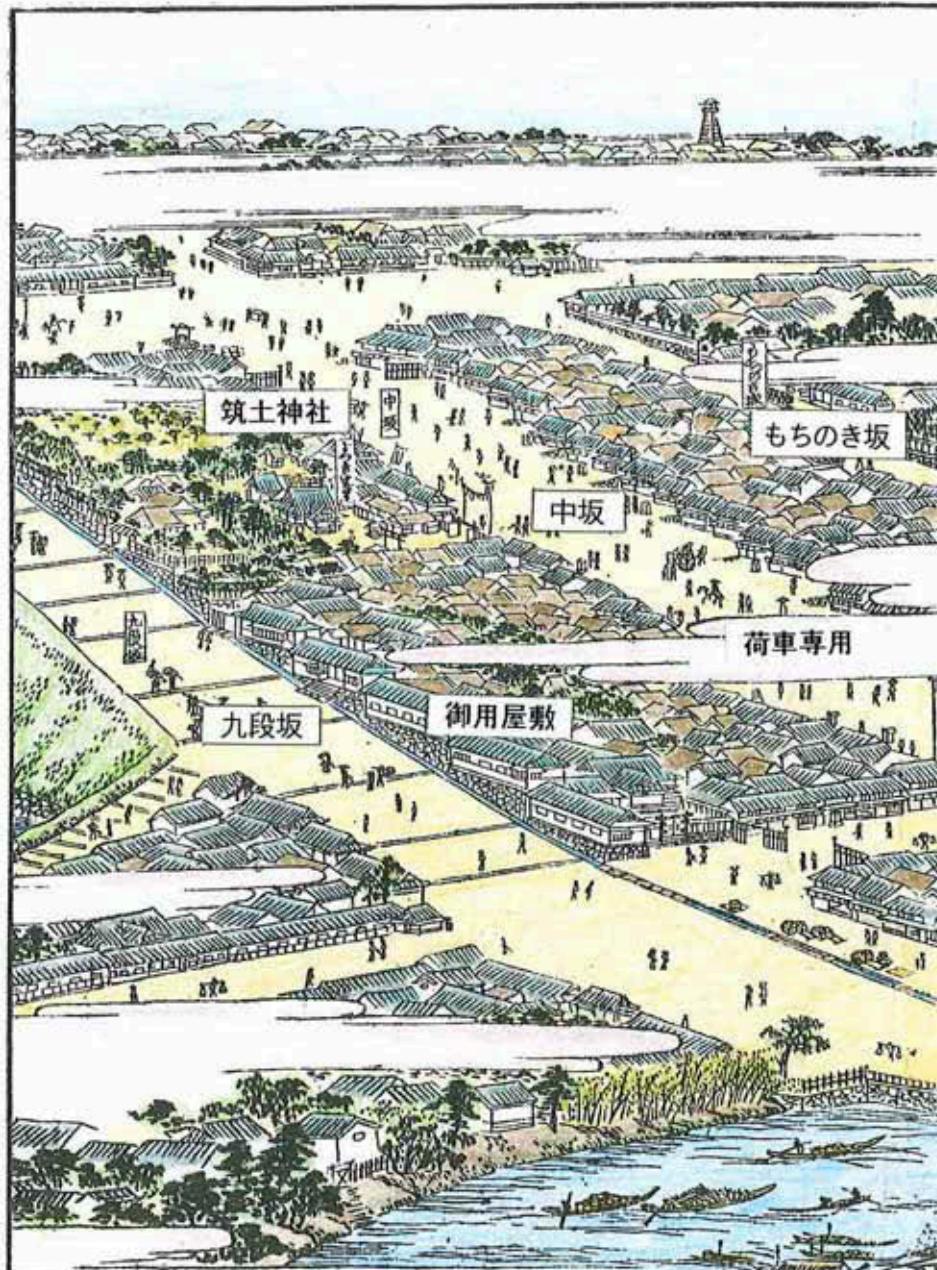
「九段牛ヶ淵」 葛飾北斎



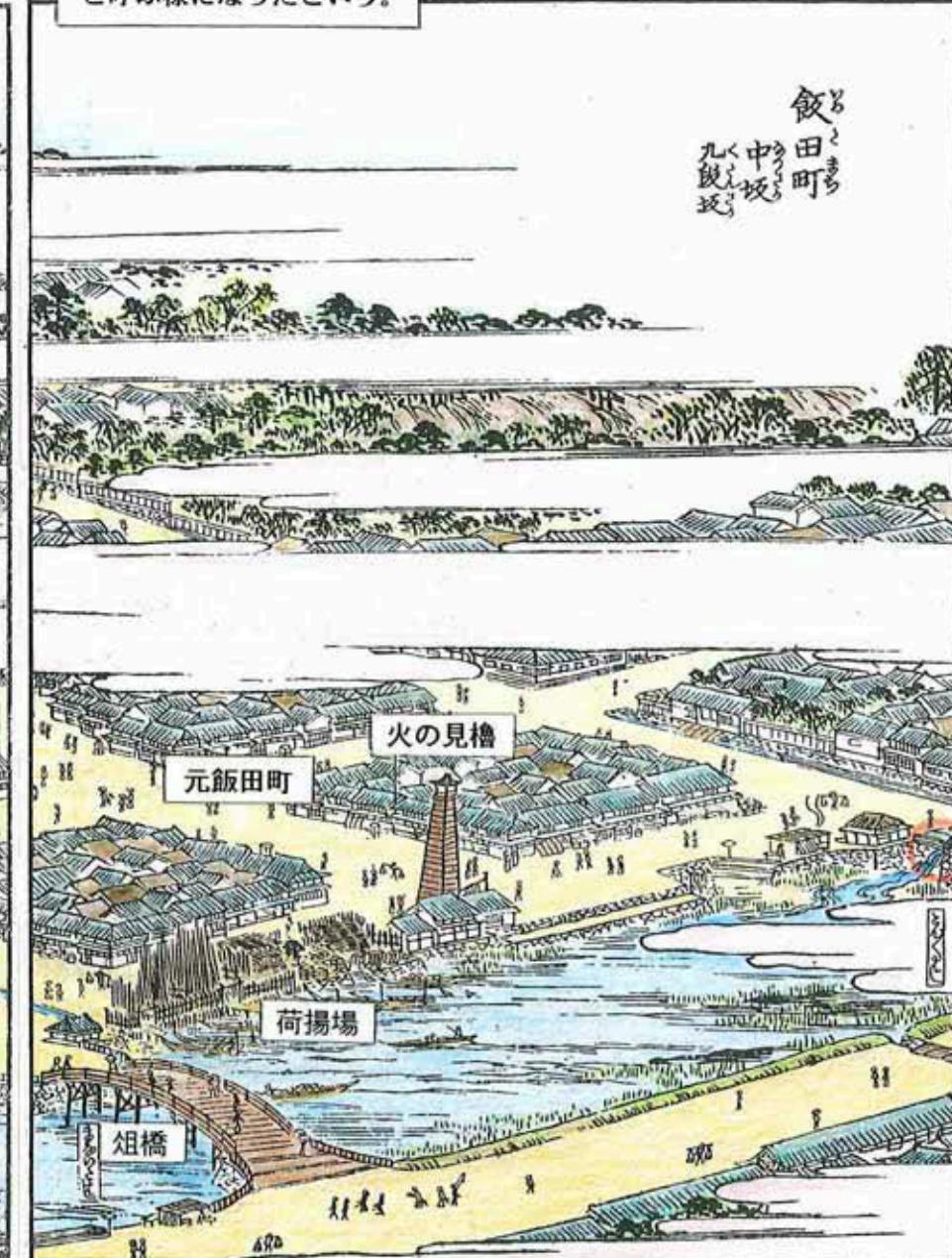
明治20年の頃の九段坂。左側は靖国神社で明治2年の創建。馬場があった。

飯田町

家康入国時に17軒ほどの農家があり、その内の1軒の飯田喜兵衛が案内役となった。その功で名主を命じられここを飯田町と呼ぶ様になったという。



田安の臺
所に築土明神の舊地あり。
元飯田町九段坂の上、
田安御門の邊をいへり。
東南の方斜を見下して、佳景の地なり。
此

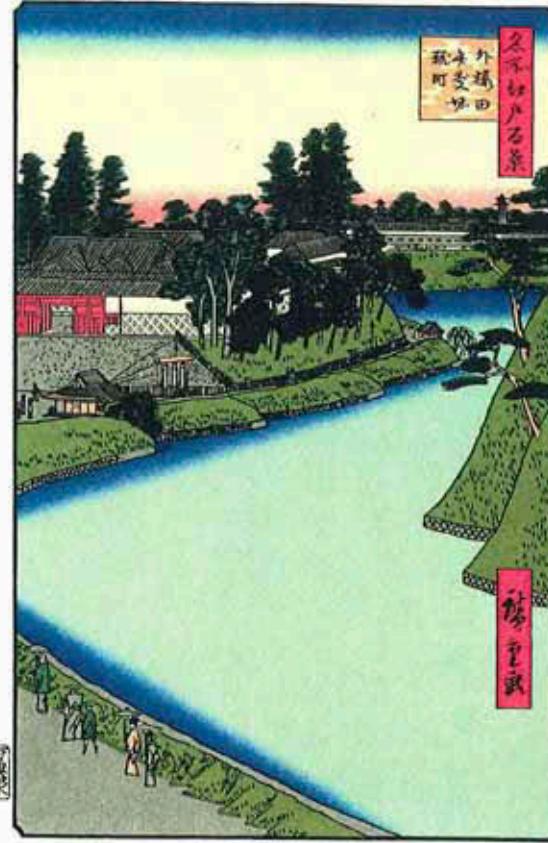


神田川からの水か

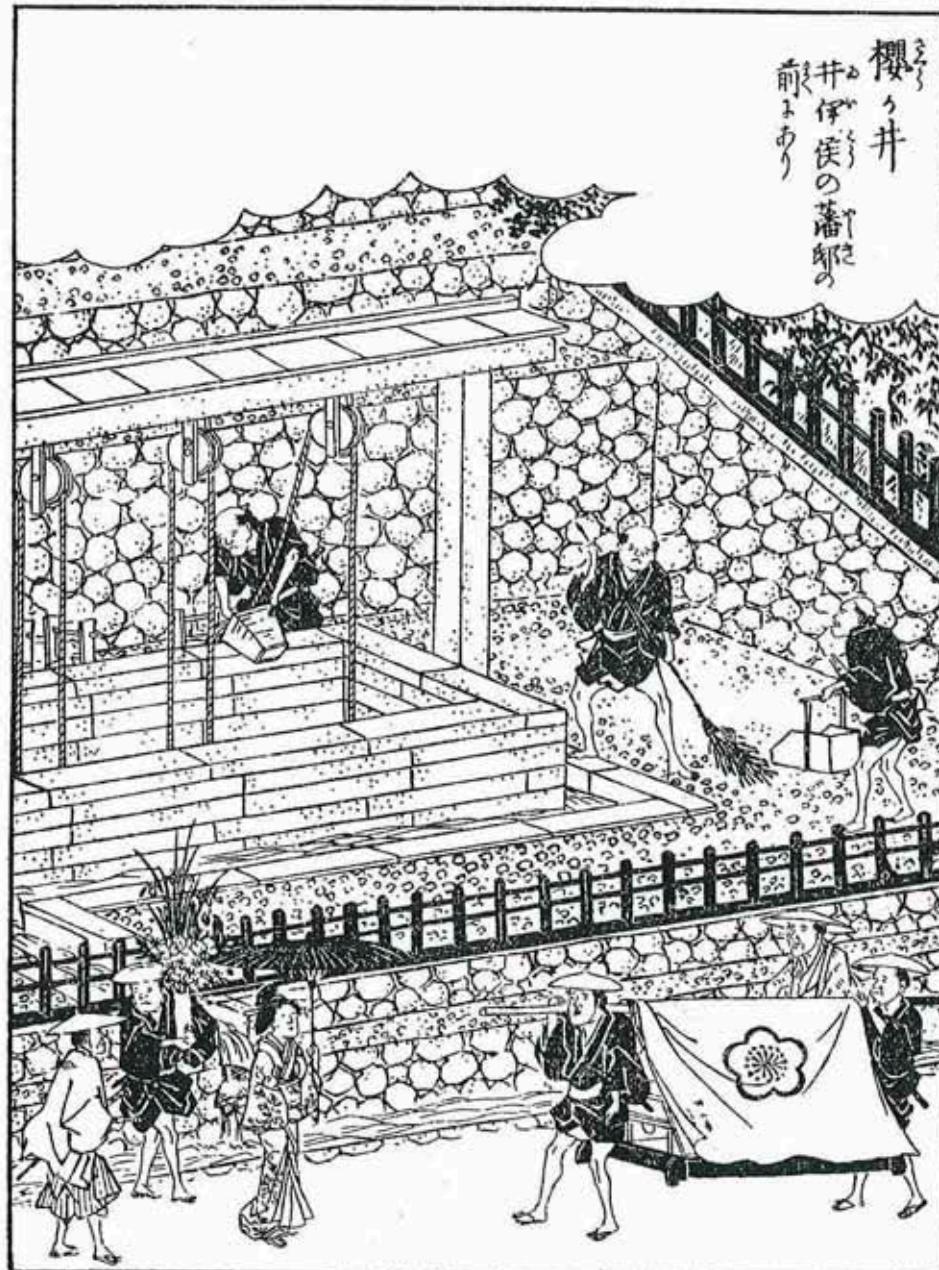
3 桜の井

千代田区永田町 一の一

II 加藤清正が掘ったという江戸の名水井戸 II

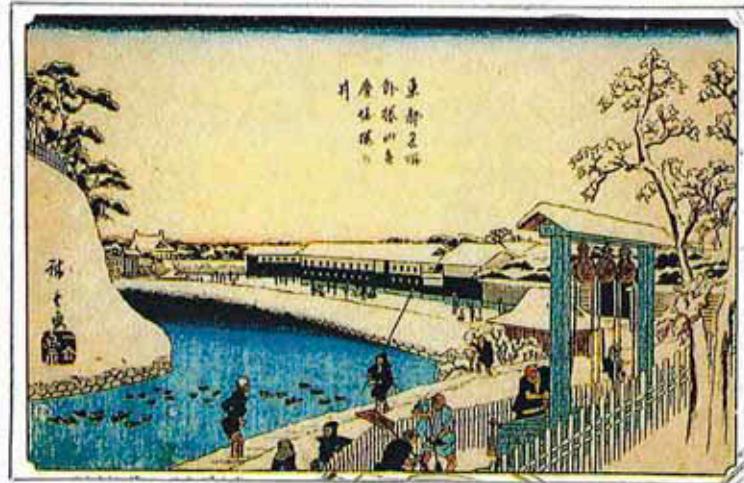


広重『名所江戸百景』 桜田門側から見た絵。



江戸名所圖會 卷三

井伊家の表門の西側にあった井戸。一度に3杯の水が同時に汲めた。
元は加藤清正の屋敷がここにあった。

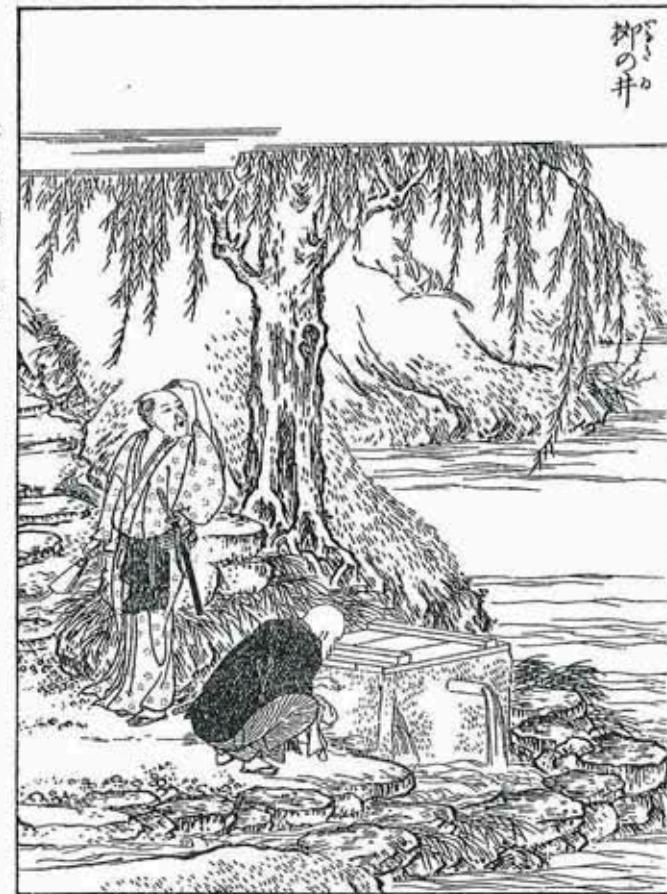


広重『東都名所』の冬の景色。

櫻が井 井伊侯藩邸表門の前、石垣のもとにあり。徑九尺ばかり、石にて疊みし大井なり。釣瓶の車三
つかけならべたり。

江戸名所圖会 卷三

清水坂
尾州公御館と井伊家の間の坂を云ふ。清水谷と唱ふるも此邊の事なり。清水谷の内なり。此所の井を柳の井と號くるは「清水流るゝ柳陰」といへる古歌の意をとり下までも清水谷の内なり。



柳の井

紀尾井町の清水谷公園にある名水の井戸。「桜の井」の北側にあつたという説もある。



清水谷公園に残っている井戸。



今の大蔵記念館か屋敷跡。



井戸の大きさは、たて約1.8m横約3m程ある。

今はなぜか撤去されてしまった。

江戸の名水「桜の井」

「桜の井」は名水井戸として知られた「江戸の名所」で、江戸、東京、井伊家と屋敷の井戸が西側にあったが、ここはわゆる清正御跡（御田跡）で、清水が涸ったと伝えられている。三連式鉄製井戸で、貯留一メートル、横約三メートルの石渠で囲んだ大井戸で三本の均柱を下ろし、一度に約三杯の水が汲め、奉茶時によく旅を訪れる通行人に重要な水を提供し、立派がされた。

江戸名所圖会に掲げられており、秋川（安藤）が食の部屋を井戸の外環田井作田の外（天保十四年（一八四三））にも記されていいる。安政七年（一八六〇）三月三日には大老井伊直弼がこの井戸の脇から登城法す、槍殺された。

江戸市は昭和三十一年（一九五五）旧跡復元、昭和四十三年（一九六八）道路工事のための墓碑内から原形のまま十メートル幅れた現地に移設復元された。

平成十九年（二〇〇七）修復復元、

四〇〇年祭奉書と金輪堂建立五十周年に記す

・平成十九年十月

東京文藝会
(滋賀県立音楽学校・奈良東高等学校同窓会)

東京都教育委員会

井戸の左側にある説明板。

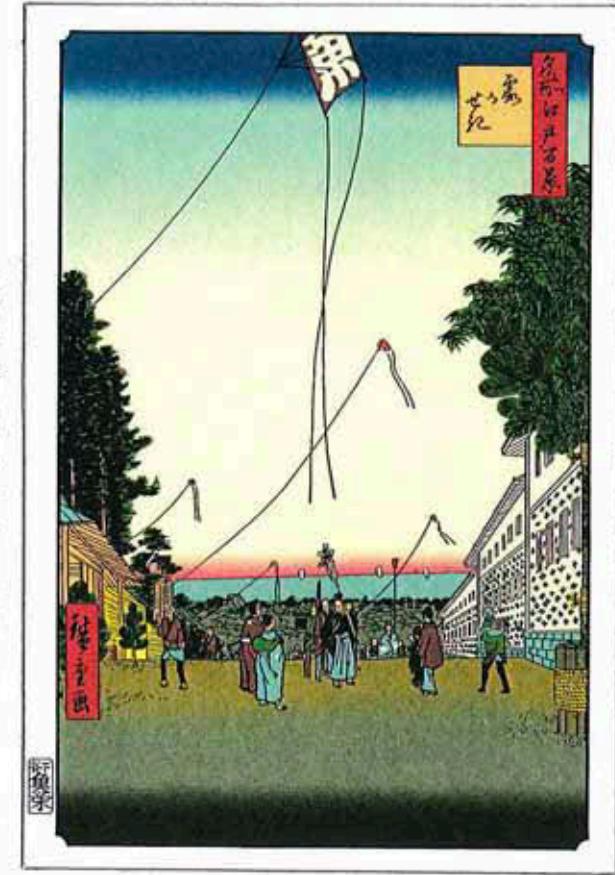
4 霞ヶ関

千代田区霞ヶ関二丁目

地名の由来は、ここに奥州街道の関所があつたので付いた名で、日本武尊が蝦夷の侵入を防ぐ為設置したといわれる。



霞ヶ関坂。左が外務省。この標識は今は無い。



広重の『名所江戸百景』は正月の風景を坂の上から見ている。遠くに江戸湾が見える。



「分間江戸大絵図」



「千代田区文化財マップ」

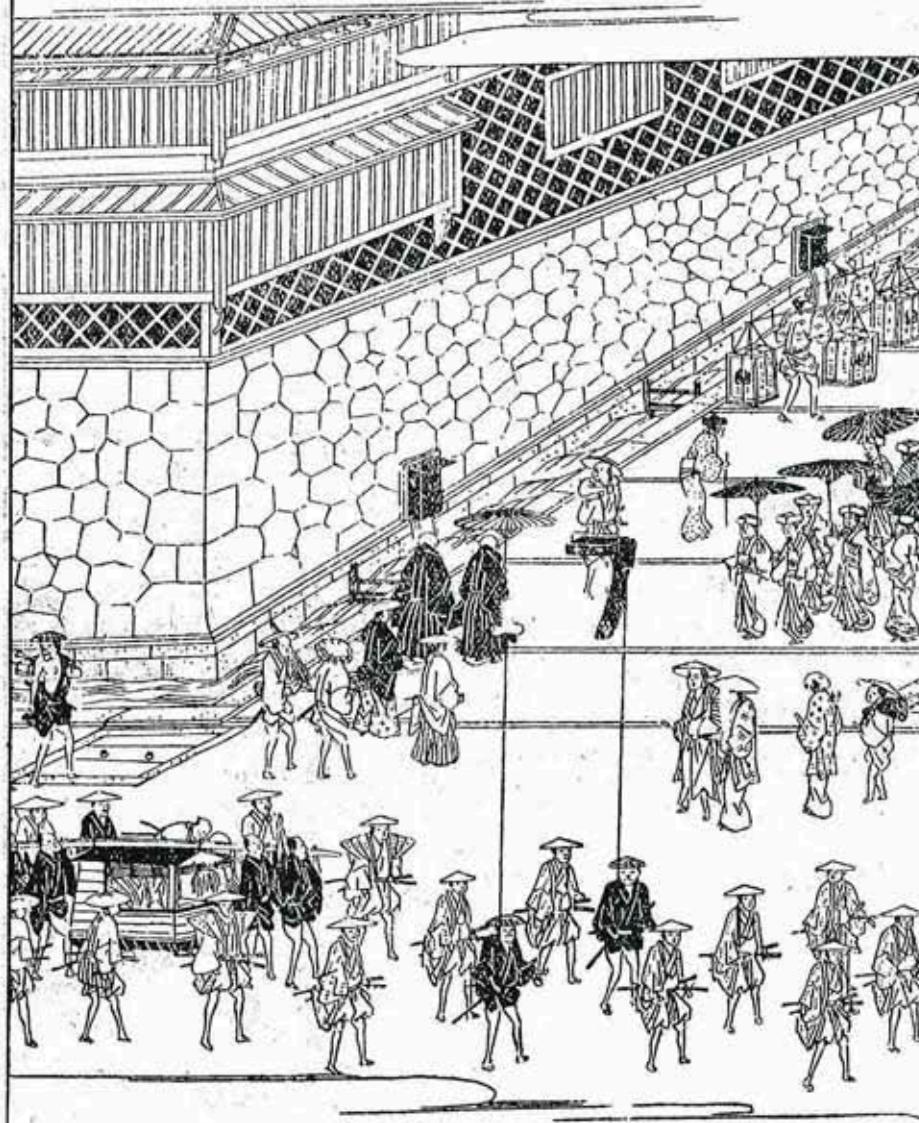


『五百年前の東京』

霞ヶ関

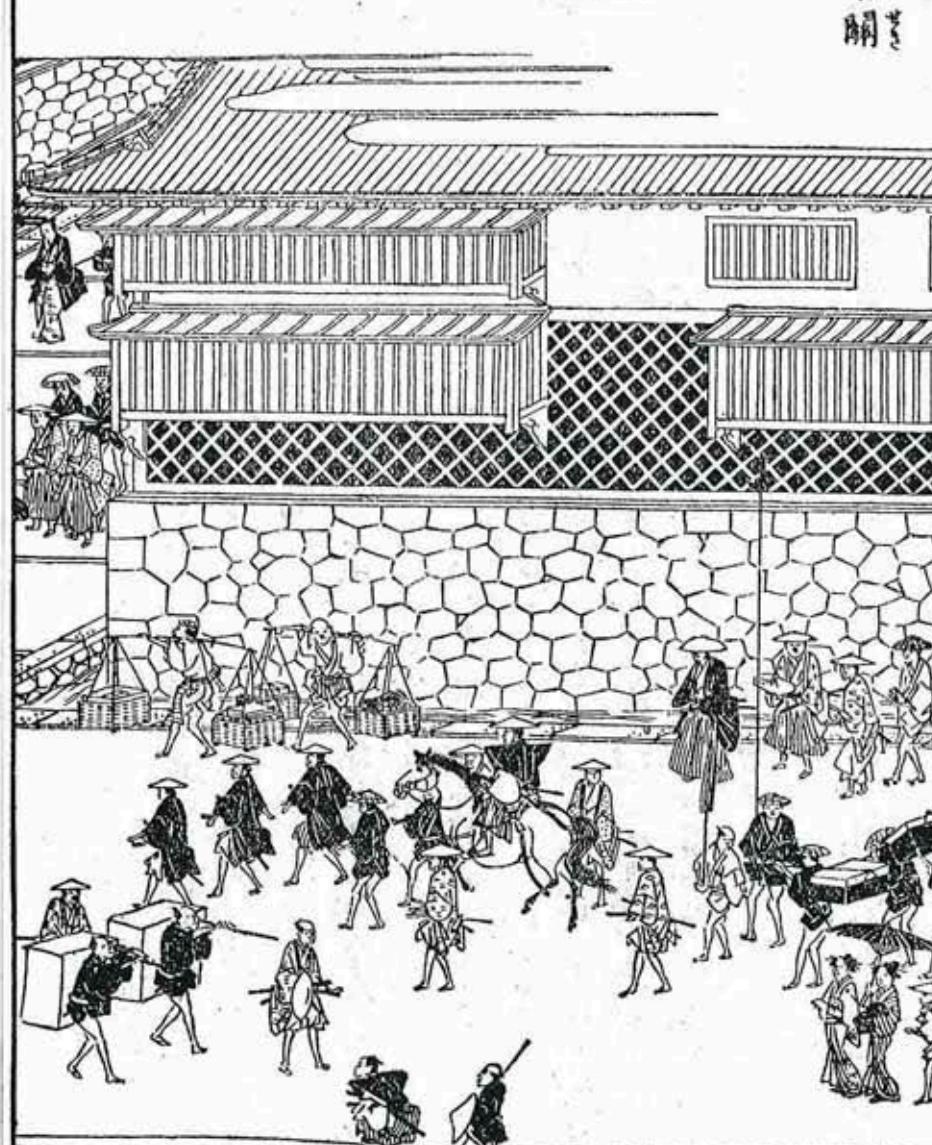
福岡藩の黒田家上屋敷（松平美濃守）

52万石



広島藩の浅野家上屋敷（松平安芸守）

42万石



霞ヶ関
地なり。
櫻田御門の南へ、
黒田家と浅野家との間の坂を云ふ。
往古の奥州街道にして、
關門のありし

5 日吉山王神社

(日枝神社)

II 祭礼は江戸三大祭の一つで、將軍も上覧したので「天下祭」といわれた

千代田区永田町 二の十の五



山王まつりの神輿の巡幸

資料 日枝神社



山車の上の人形は山王神社の使いの猿で、この絵は45台あった
内の一つで3番目をゆく麹町1丁目の山車の絵。

高台にあり下には溜池を望む景勝地で、今の建物は戦災で焼失したあと昭和33年再建されたもの。大津市の日吉大社が總本社で祭神は大山咋神。古くは「ひえ」と呼んでいたが平安時代の頃から縁起をついて「ひよし」と呼ぶ様になった。全国に3800社程ある。

明治元年に
日枝神社と改めた



象は造りもので人が中に入って歩きめぐらしがられた。

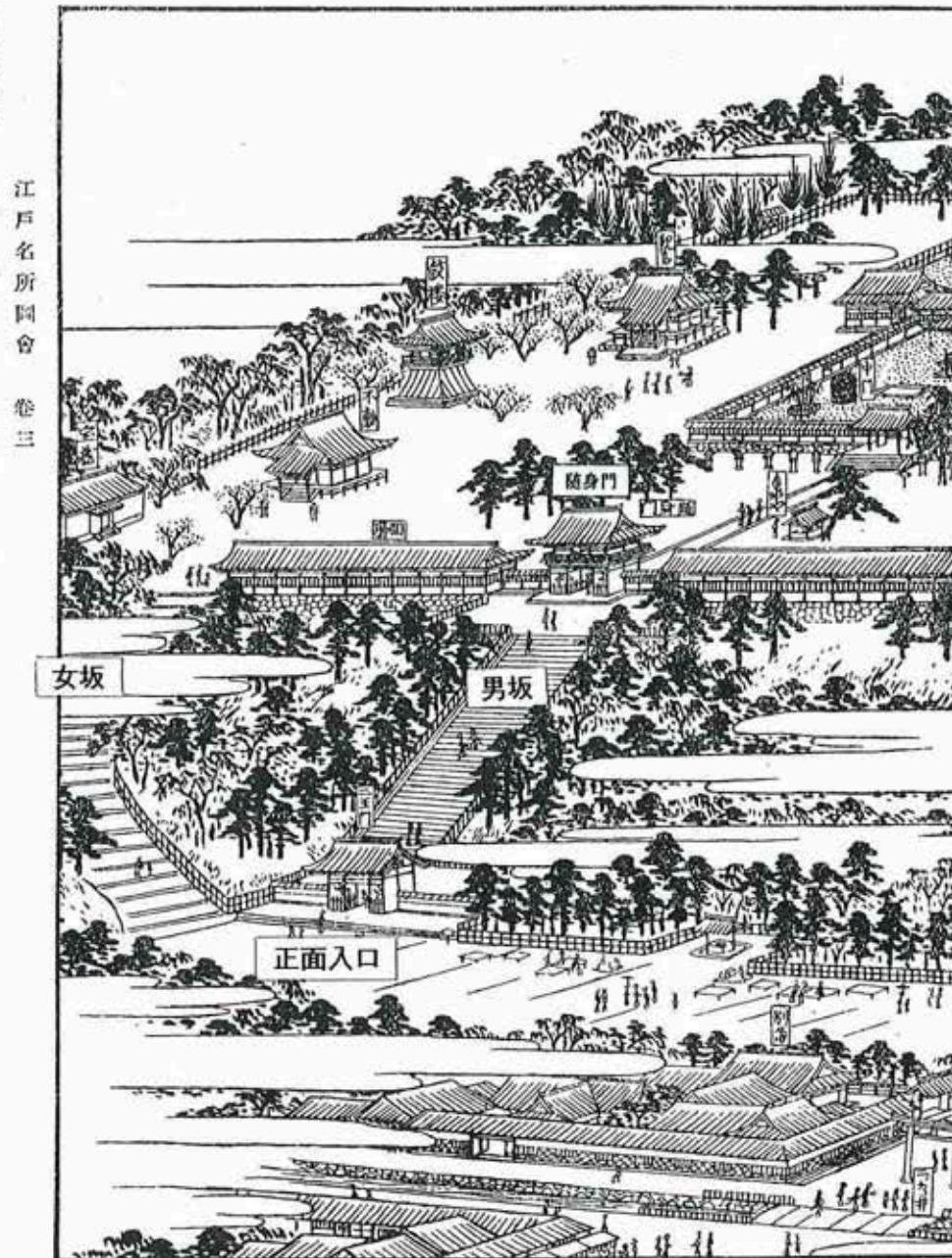


日吉山王神社

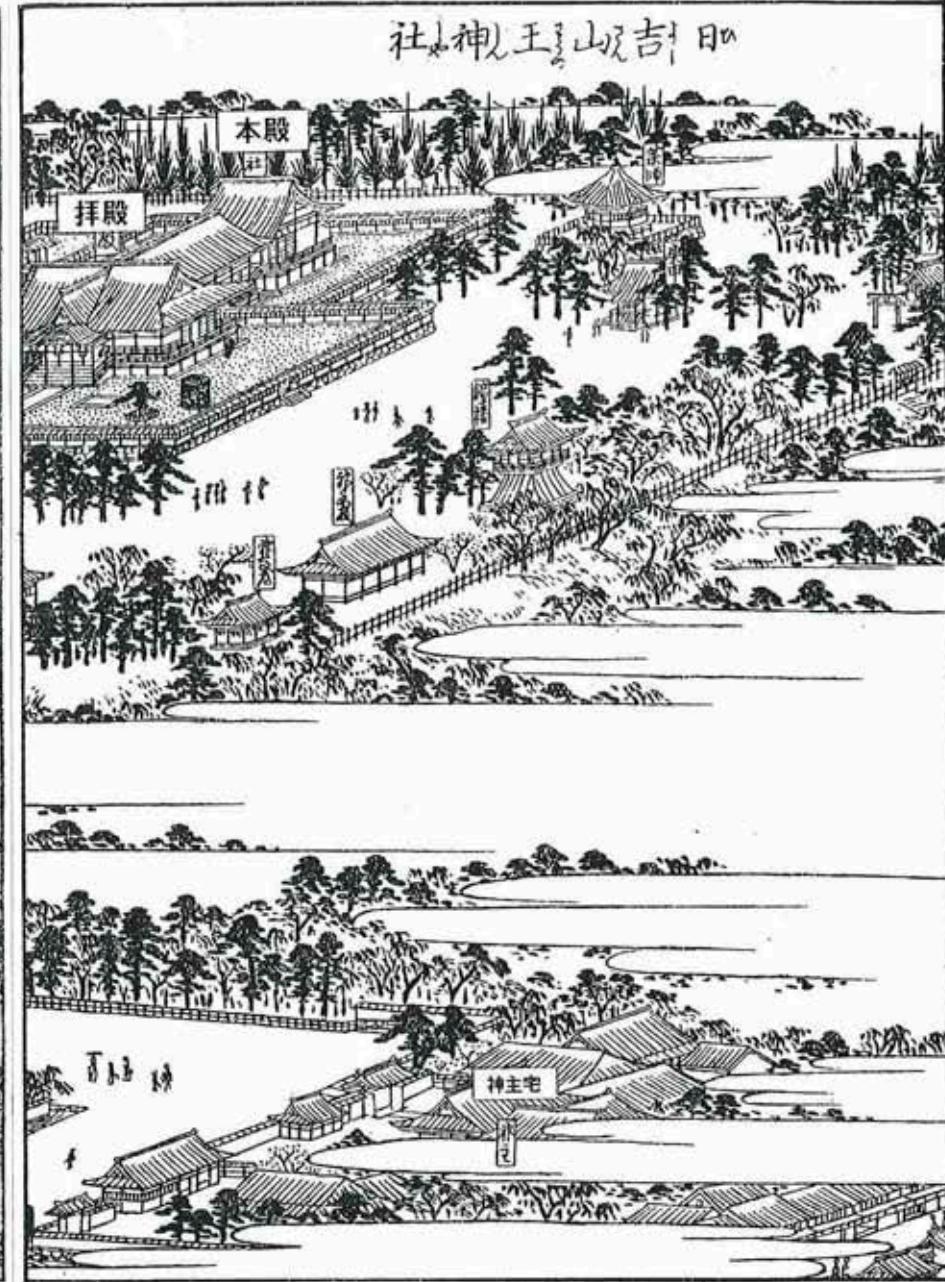
日枝神社は鎌倉時代初期に江戸重継が居館に山王宮を祀ったのが始まり。文明10年（1478）太田道灌が川越から江戸城内の紅葉山に移した。明暦の大火（1657）で焼失したあと、4代将軍家綱の命で今の所に移し万治2年（1659）完成した。

日吉山王神社

台命あつて今地へ遷座なし奉り、江府第一の宮居となれり。御祭禮は隔年六月十五日なり。



江戸名所圖會 卷三



江戸名所圖會 卷三

6 豊島屋酒店

元の鎌倉河岸の住所

千代田区内神田 2丁目

今でもある四百五十年も続く江戸の老舗



豊島屋本店 今でも白酒を売っている。現住所
千代田区猿楽町1—5—1



ここが店があった所で右側には「鎌倉河岸」があった。鎌倉河岸とは
鎌倉の出身者が多かったので付いた名で、江戸城築城の時の荷揚場。



東村山市に工場がある。昭和初期の創業で金婚という名の酒を売っている。
東村山市久米川町3—14—10

ト 豊島屋本店 (白酒)

白酒が雑祭にかかせないものになったのは、神田鎌倉河岸「豊島屋」が毎年1月末に売り出すようになつてからという逸話がある。

創業は慶長元年、もととは主に下酒と呼ばれる、灘から樽回船で運んできた酒を飲ませる居酒屋であつた。特に酒の肴として出されていた田楽は有名で、「田楽も鎌倉河岸ハ地者也」という川柳も残つている。それが「山なれば富士 白酒なればとしまや」とまで詠まれるようになる。きっかけは、ある晩初代重兵衛の夢枕に可愛い紙雛が立つて、白酒のつくり方をことこまかに教えたことに始まる。さつそくその通りにつくり、雑祭用に売り出すと、江戸中は言うに及ばず水戸侯を始め諸大名の評判となつた。

白酒の売り出し当日の騒ぎはすさまじいものであつたという。店前に矢来を結び、客は入口より切手を求めて入り、白酒と取替えると出口から押し出された。店の者が整理にあたり、医者も詰めていた。この有様は「江戸名所図会」にも「豊島屋 白酒を賣ふ圖」として残っている。

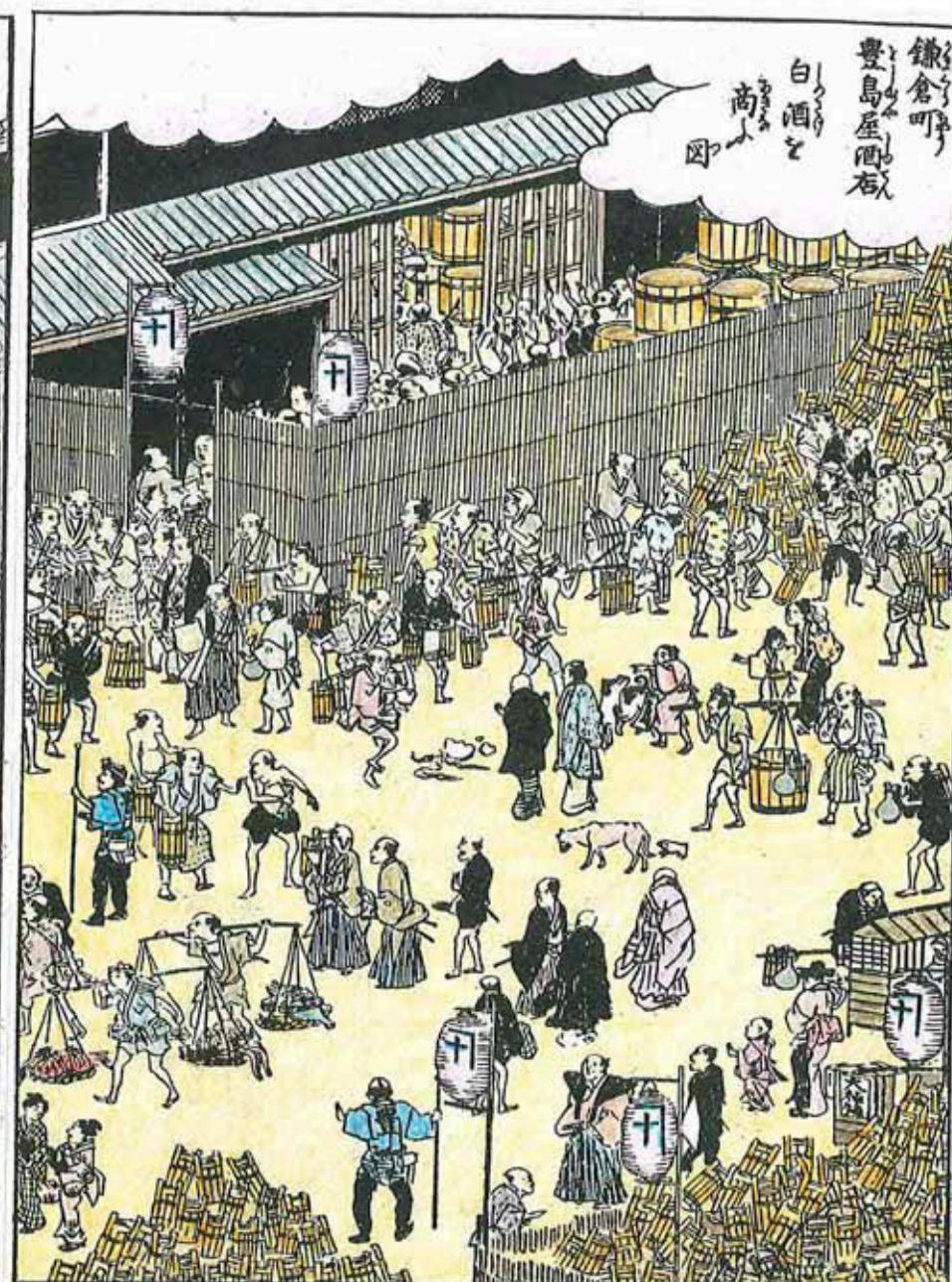
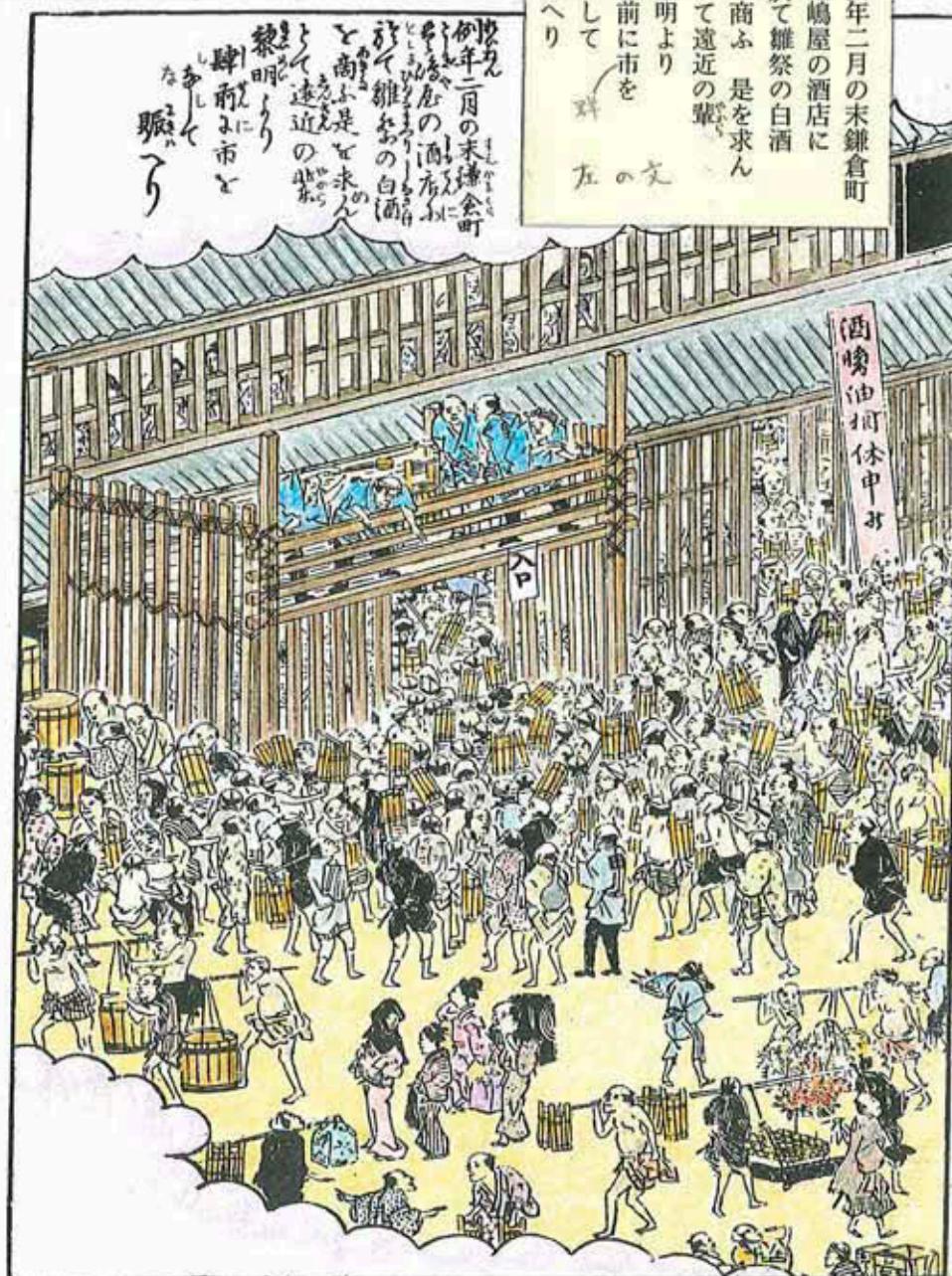
『江戸老舗地図』



絵にある升は豊島屋酒店の商標で、初代十右衛門の名を
とつて付けた。

豊島屋酒店

創業は慶長元年（1569）で、元は鎌倉河岸で居酒屋
から始まった酒店。ひな祭に白酒を売り大繁盛した。



7 水道橋 (懸樋)

千代田区神田駿河台2丁目

江戸川公園にあった大洗堰で分水し、今の後楽園（水戸徳川家上屋敷）の中を通りここから神田・日本橋方面に給水していた



神田川を水道橋の側から見る。右が駿河台。左奥に懸樋があった。



江戸初期の「江戸図屏風」に描かれている「お茶の水」の井戸の左側の絵で右側にもあり、井戸は2つあった。右が高林寺。



「お茶の水」の碑は元は上の地図の所にあった。今は駅前の交番の裏になってしまっている。

『文京区史跡さんぽ地図』



懸樋のあった所にある説明板。平成8年設置。

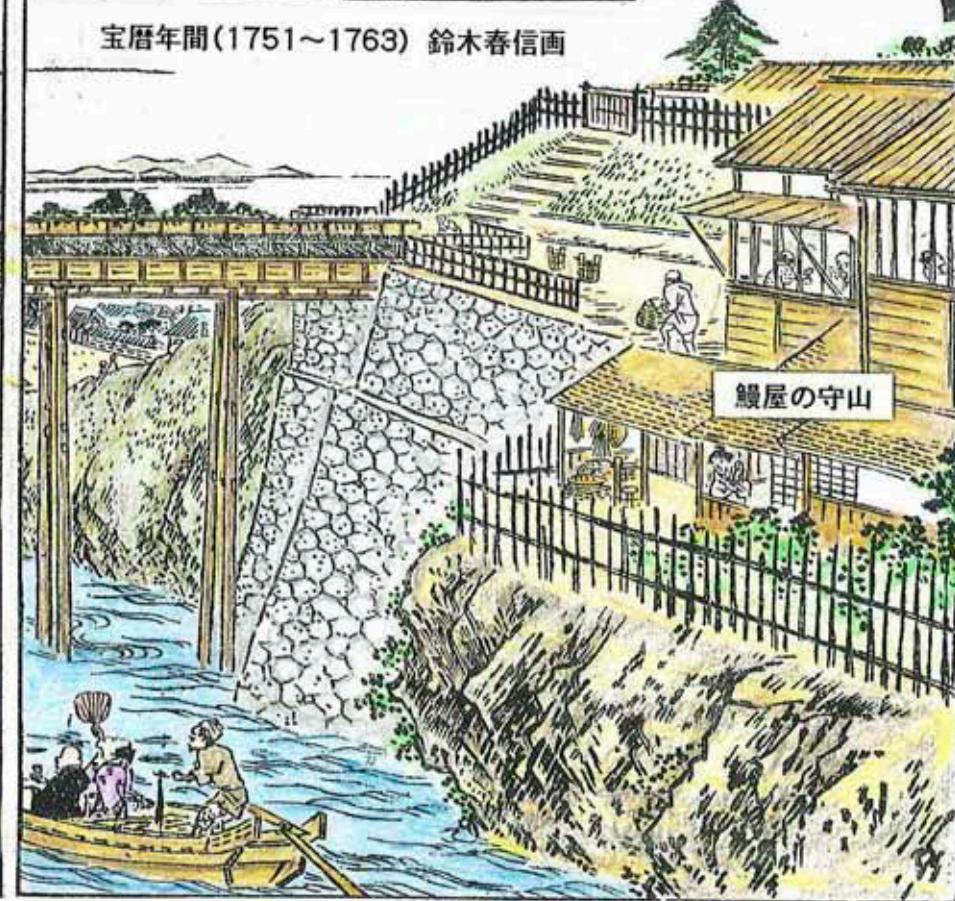
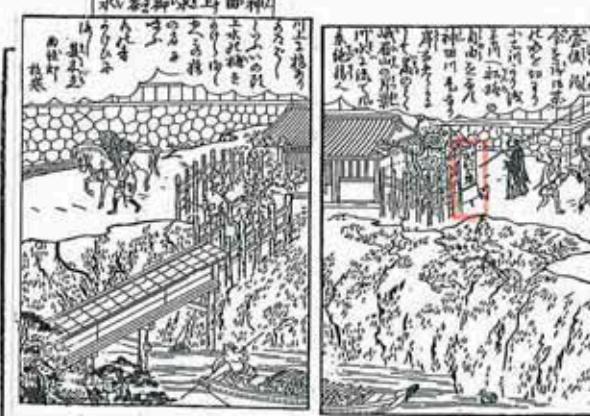
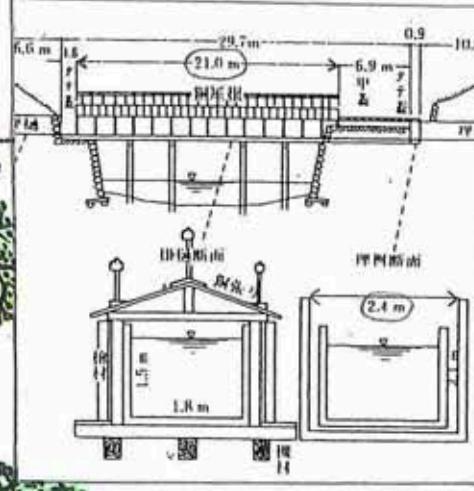
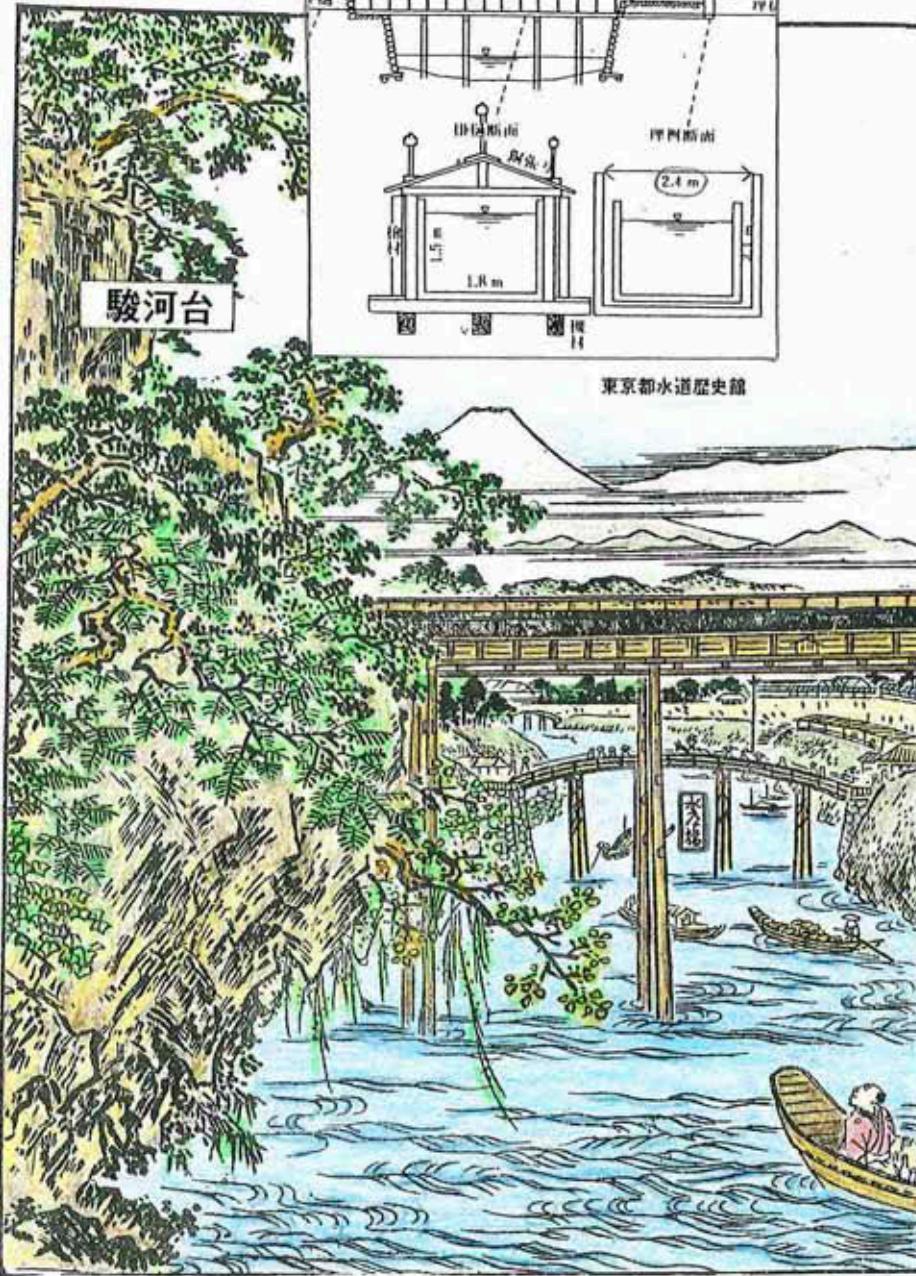


明暦3年（1657）頃の『明暦江戸大絵図』
2つの井戸が描かれている。
『江戸東京地形の謎』

大かばんとある。

水道橋

『絵本続江戸土産』



水道橋 小川町より小石川への出口、神田川の流に架す。此橋の少し下の方に神田上水の懸樋あり。故に號とす。此下の川は、萬治の頃仙臺侯命を奉じて掘削らるゝ所なりといふ。萬治の頃迄、駒込の吉祥寺此地にあり。其表門の通にありしとて、此橋の舊名を吉祥寺橋ともいへり。

8 神田明神社

千代田区外神田 二の十六の二

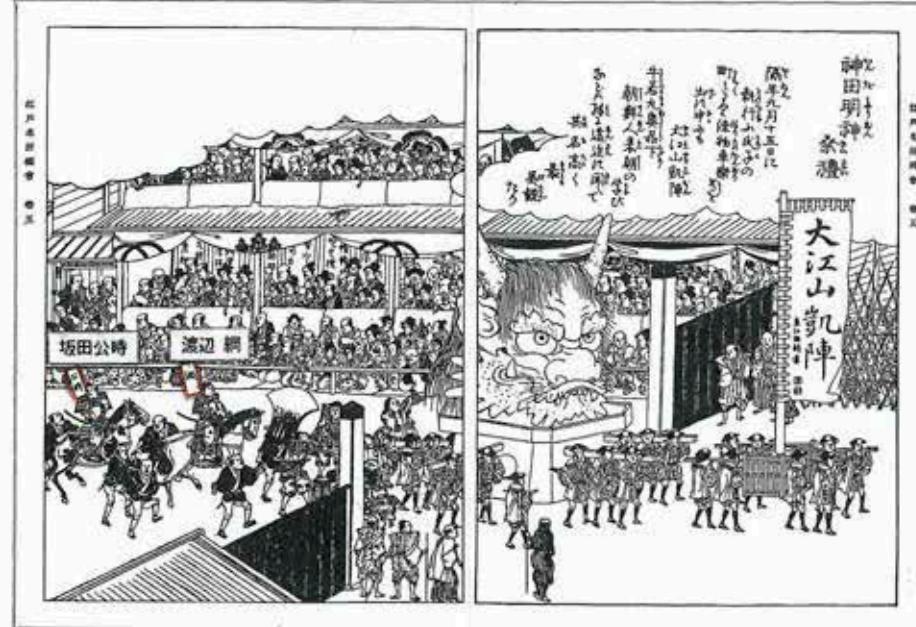
II 江戸の総鎮守で祭は天下祭として知られている II



天平2年（730）の創建。大手町（芝崎村）から元和2年（1616）現在の所へ移る。震災で倒壊し昭和9年鉄筋で再建された。



神田明神の発祥の地。天慶3年（940）関東で反乱を起こした平将門の首が京から飛んできたとされる所。 大手町1-2



神田祭の「大江山の鬼退治」の行列の絵。後の馬にのっている武将は源頼光の臣の「渡辺綱」と箱根山の「坂田公時」



ゆかりの銭形平次の碑がある。

神田明神社

祭神 ①元は「大己貴命（大国主命）」一神のみ。

②天慶年間（938～947）「平将門」の靈を祀る。

③明治7年常陸國の大洗磯前神社から「少彦名命」の分靈を祀る。

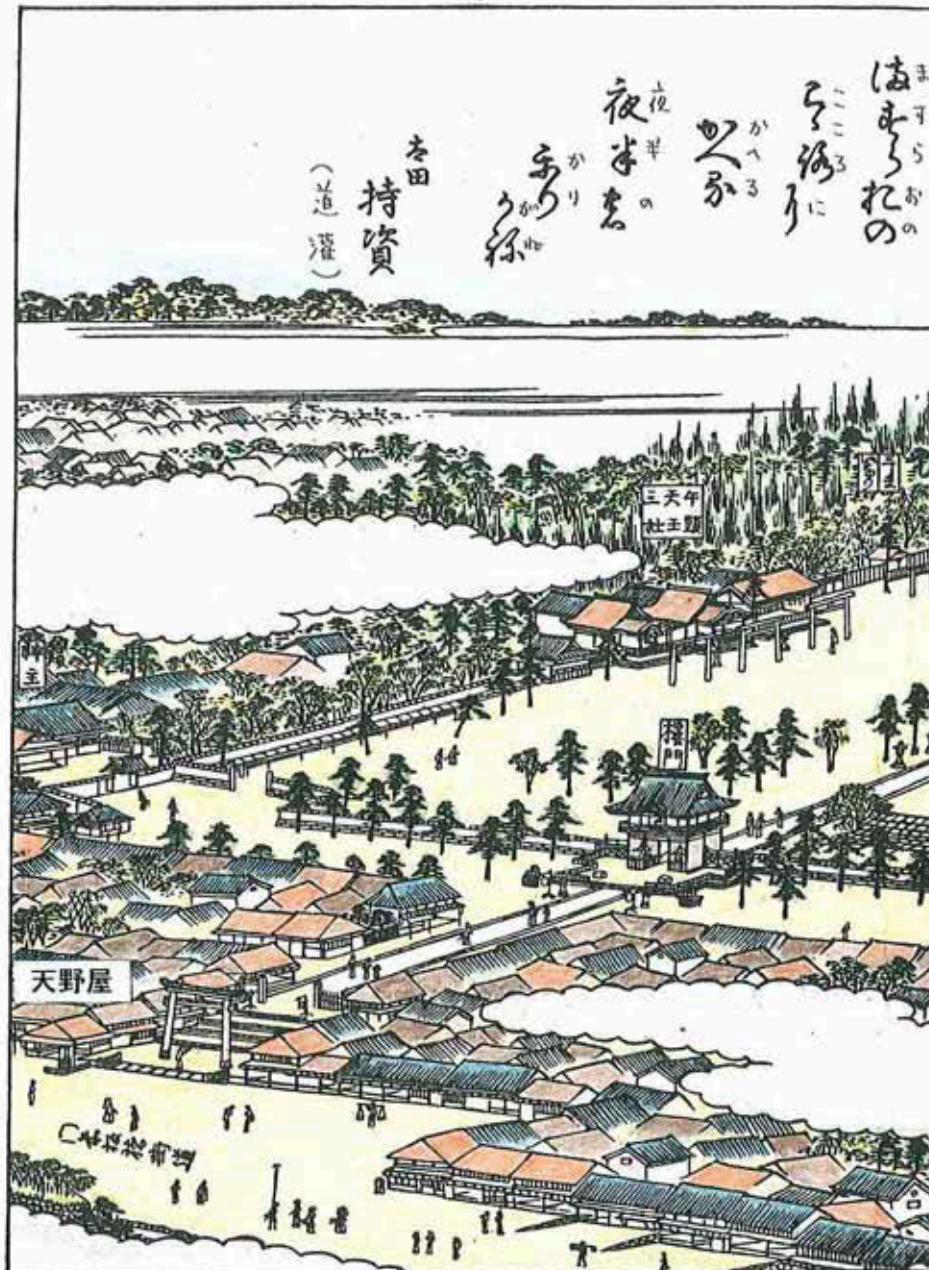
神田 大明神社

傳に曰く、人皇四十五代

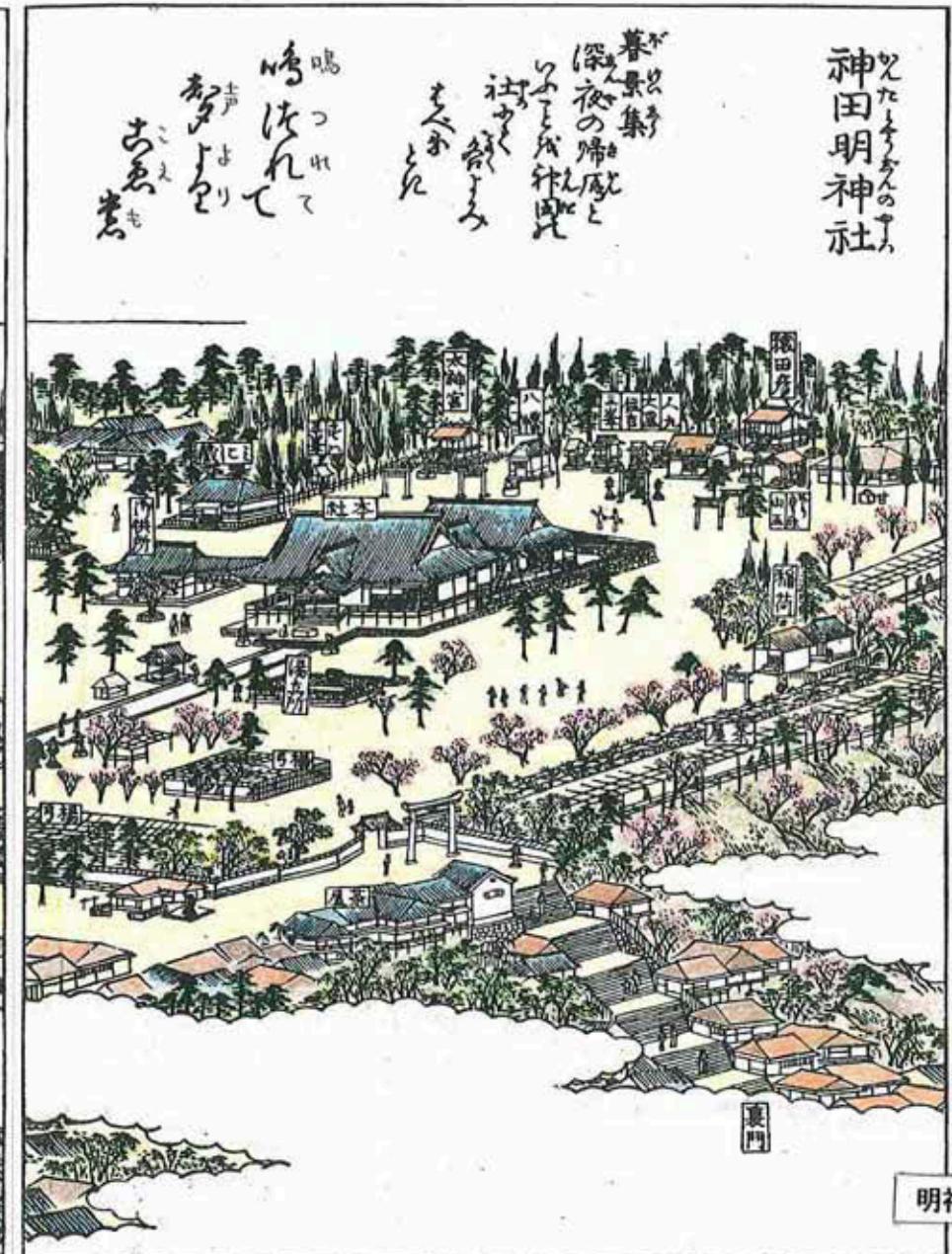
聖堂の北にあり。唯一にして江戸總鎮守と稱す。

聖武天皇の御宇、天平二年の鎮座にして、元和二年今

の湯島にうつさせらる。



天野屋：弘化3年（1846）創業の甘酒屋。



9 今川橋

千代田区鍛冶町 一の五の七

II 橋のあった所は今でも千代田区と中央区の区境になつていてる!!



絵と同じ方向から見た写真。



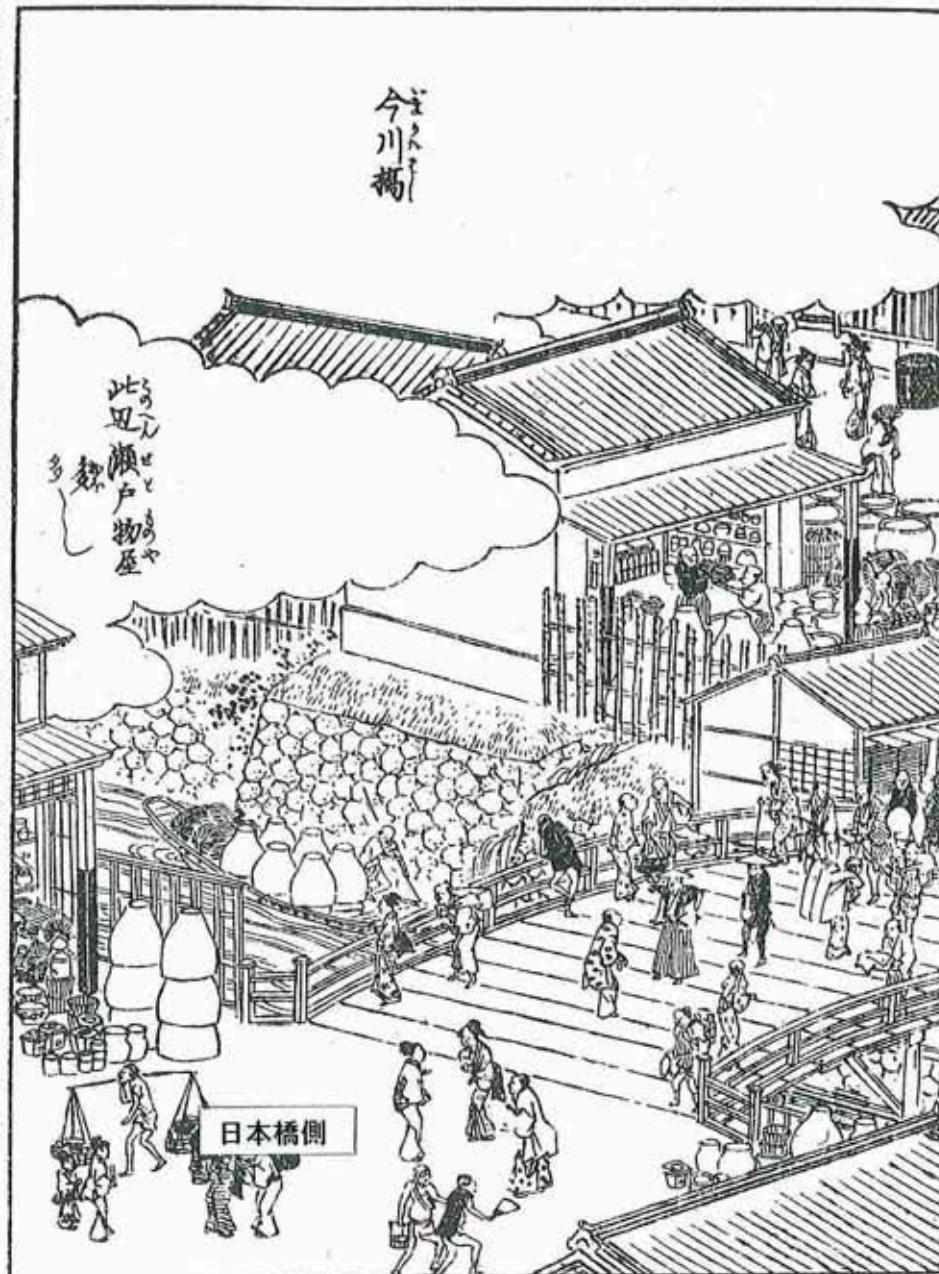
橋のあった所。手前が鎌倉河岸側で竜閣川という堀が流れていた。右が中央区で左が千代田区。説明板がある。

今川橋跡

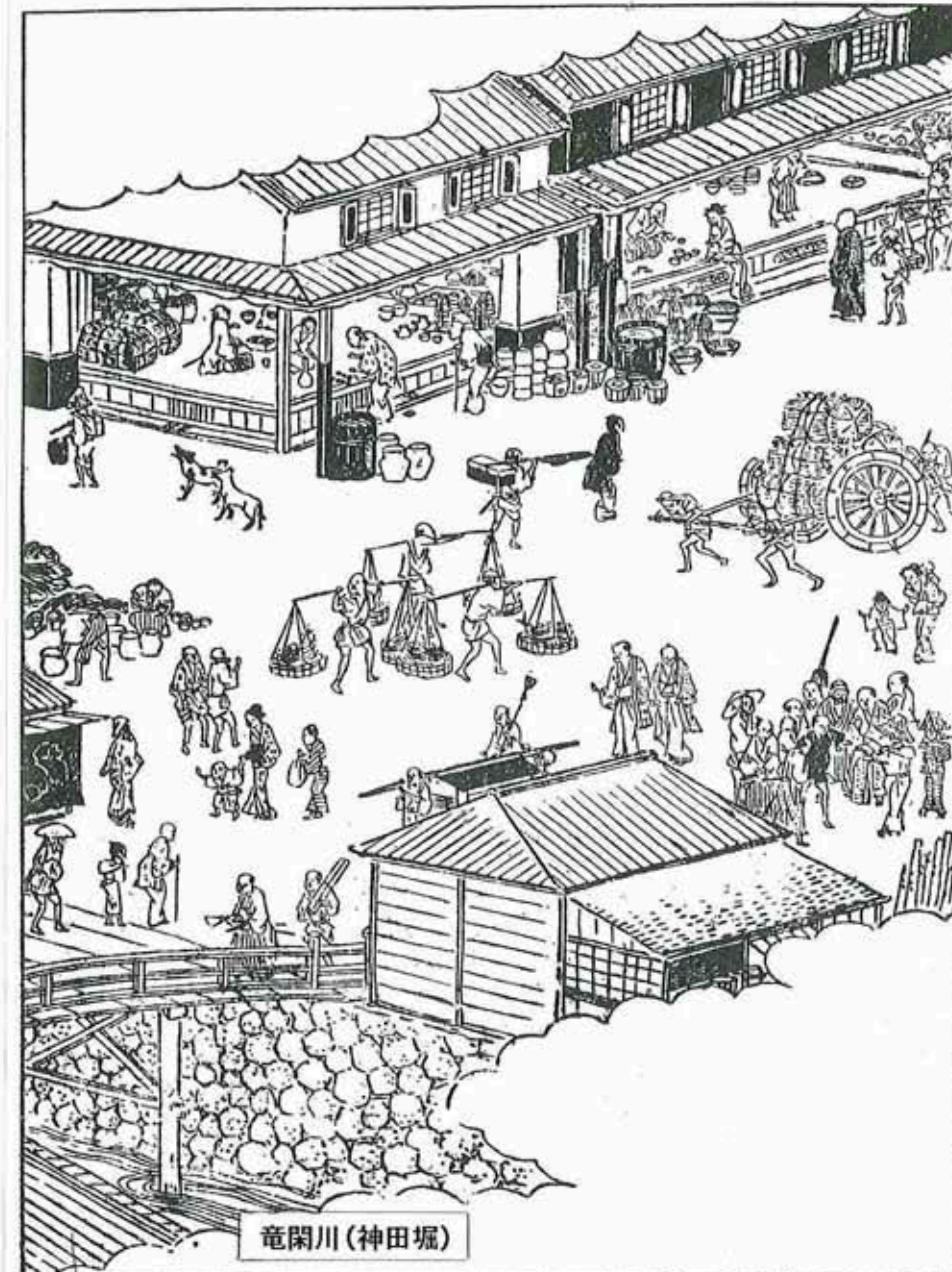
下を流れていた竜閣堀は元禄4年（1691）に火除用として掘られた堀で、戦後の昭和25年に埋めたてられた。

今川橋

橋の名は名主の今川善右衛門にちなんで名付けられたという。
回りは瀬戸物屋が多かった。



今川橋
本銀町の大通より、元乗物町へ渡る橋を云ふ。此堀を神田堀と號く。元祿四年辛未掘割りたりとぞ。其頃此地の里正を今川某と云ひければ直に橋の號に呼びけると云ふ。今此橋詰の左右に陶器廠あり。



《中央区》

||五街道の起点の橋||

10 日本橋 中央区日本橋



日本橋が出来た明治44年に造られたキリン像で
“ここから日本中に飛び立て”という意味がある。
作者は彫刻家の渡辺長男氏。



五街道の起点の日本橋。最初の架設は慶長8年（1603）現在の
橋は明治44年に架けられた橋で、長さ約50m・幅27mある。



東京の道路の元標。昭和46年に都電の廃止と
共に橋の真中にあったものを今の北詰に移した。



道路の元標。橋の真中にも埋
め込まれている。



大正の頃の日本橋。左の奥が三越本店。

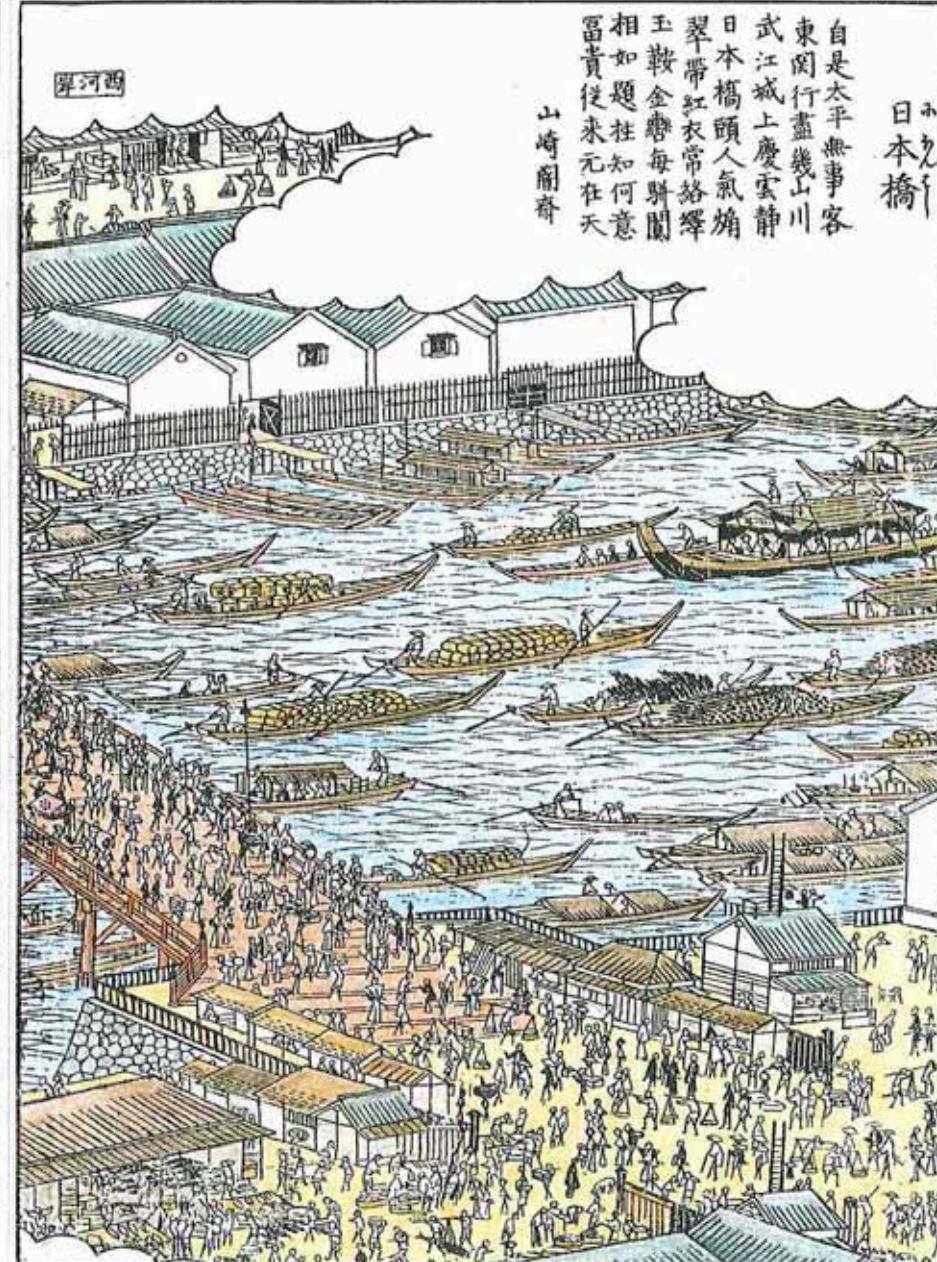
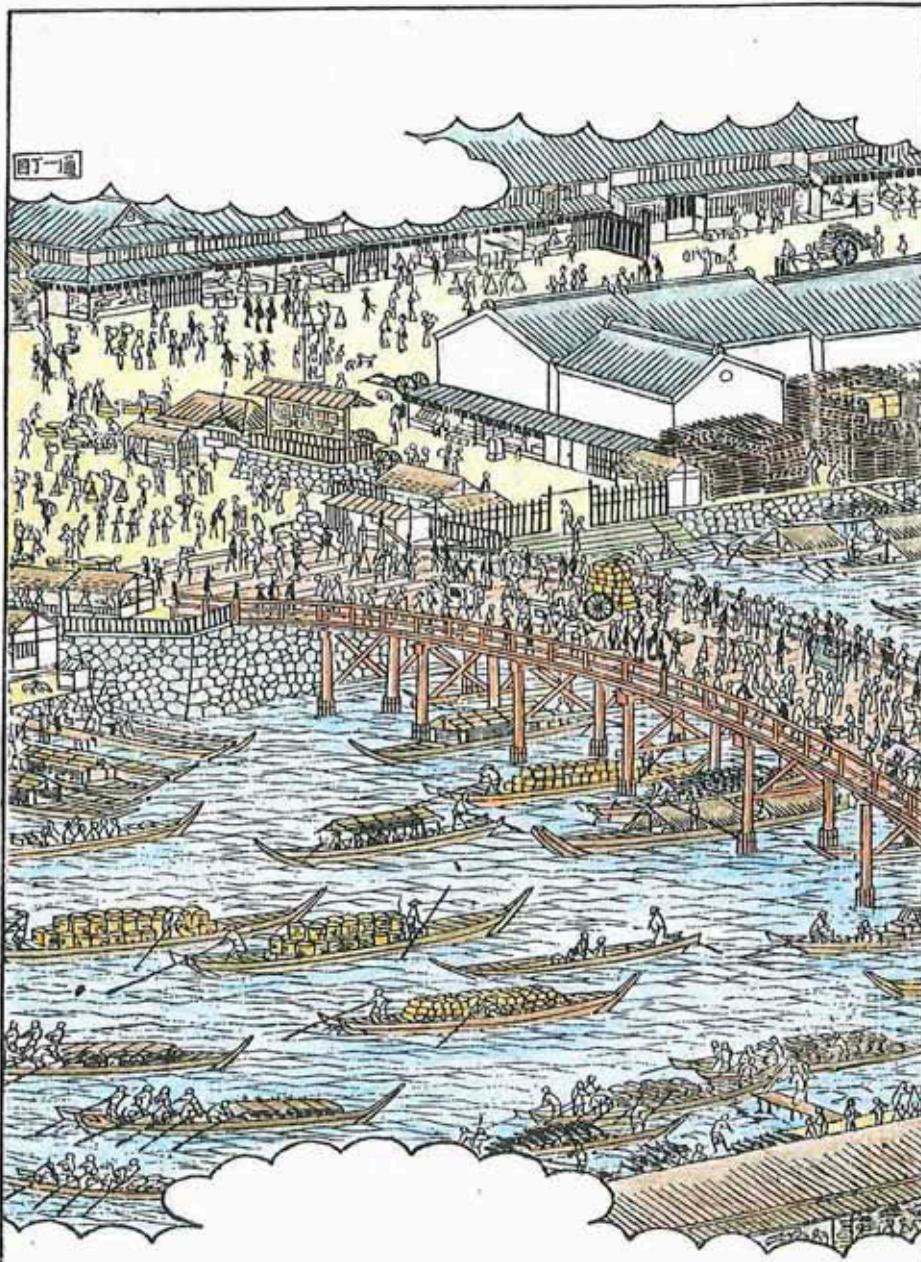
日本橋

江戸名所圖會 卷一

日本橋

自是太平無事客
東閣行盡幾山川
武江城上慶雲靜
日本橋頭人氣煥
翠帶紅衣常絡繹
王鞍金轡每駢闌
相如題柱知何意
富貴從來元在天

山崎南齋



日本橋
南北へ架す。長凡二十八間、南の橋詰西の方に御高札を立てらる。欄檻葱寶珠の銘に、「萬治元年戊戌九月造立」と鏄す。此橋を日本橋といふは、旭日東海を出づるを親しく見る故にしか號くるといへり。